

第四回 マジックボックス主催カードマジック研究会 配布予定コラム

次のシチュエーションを例に、動作とセリフの連動について考えていきたいと思います。

現象

4枚のエースを示し、テーブルに置くが、そのうち3枚は他のカードにすり替わっている

方法

4枚のエースを抜き出し、左手の裏向きのデッキ、トップから3枚目の下に左手小指でブレークを保持する。右手は4枚のエースを表向きにエンドグリップで持つ。その後、左手のブレークより上の3枚を右手のエースのポケットのボトムにシークレットアデクションする。右手のポケット(計7枚)のトップカードを左手親指で左に引き、計3枚を1枚ずつ、右手のポケットで裏向きにしながら左手のデッキのトップに取っていく。4枚目のエースが見えたら、右手のポケット(計4枚)をデッキのトップに置き、4枚目のエースを裏向きにした後、トップから4枚をテーブルに置く。結果1、2、3枚目のエースは左手デッキのトップから1、2、3枚目のカードとすり替わったことになる。

。

以上はよくあるシチュエーションだと思います。これにセリフを加えたらどのようにしますか？よくあるセリフは以下のようなものでしょう。

(日)「今回は4枚のエースを使います。エースが、1...2...3...4枚あります。このエースを使って.....」

「1...2...3...4枚」のところを「クラブ...ハート...スペード...ダイヤ」などにしても同じでしょう。実はこのよく聞くセリフは適切なものとは言えません。適切だと思われるセリフは以下のようなものです。

(月)「今回は4枚のエースを使います。このエースを使って...」

さらに適切にすると以下のようなセリフになります。

(火)「今回はある4枚のカードを使うのですが、何だと思いませんか？それは、エースです。このエースを使って.....」

ポイントは「重複した表現を省く」と、「動機付け」です。

(日)のセリフでは、エース4枚を2回示しています。普通ならば、最初の「4枚のエースを使います」

で十分です。しかし、「秘密の動作」の都合上、エースをもう一度数えています。結果、「秘密の動作」の部分が2回の表現により強調されてしまいます。

(月)のセリフではそれが完全に省かれています。左手親指で引く動作は、「このエースを使って」の「こ」で始まり、「使って」の「て」で終わります。

(火)のセリフは、重複していない上、「動機付け」もされています。つまりエースを見せる理由として、エースを見せないでデッキから抜き取るのです。このとき、「1、2、3、4枚」と数えてはいけません。エースは当然ながら4枚しかないのです。当然のことを表現するのは、2回表現しているのと同じです。「クラブ、ハート…」も同様です。

他のシチュエーションでも同様です。例えば、エルムズレイカウントをする場合、「1、2、3、4枚」というセリフを言いがちですが、4枚であることを強調しなければいけない場合(例えば、「4枚になる」という現象が起きるとき等)意外は使用するべきではありません。

マジックは技法の組み合わせで作られるパズルではありません。しかし、マジックの都合上、技法を使用しなければいけないこともあるでしょう。技法自体を練習し、気配を消すことも重要です。しかしそれには限界があります。その限界をなくすのが演出でありセリフです。一度セリフを見直してみましょう。新しい知識を得なくともセリフを見直すだけで演技がよくなっていくでしょう。